

主 な ト ピ ッ ク ス

バイオマス活用推進計画の策定

平成 16 年度に策定した「バイオマス利活用マスタープラン」の進捗状況を踏まえるとともに、国の「バイオマス活用推進基本計画」や最新の活用技術などを考慮して、平成 24 年 6 月に新しい「愛媛県バイオマス活用推進計画」を策定しました。

県内全域で、県民みんなが参加する取組みに広げ、本県におけるバイオマス活用の実践を着実に進展させていくことに主眼を置き、

- みんなでバイオマス
- 広げようバイオマス
- チャレンジしようバイオマス

の 3 つを基本方針として、10 の施策でバイオマスの活用推進に取り組みます。

【バイオマス活用の基本方針と施策】

基本方針 1 みんなでバイオマス

県民・事業者の「バイオマス活用」「バイオマス製品」「バイオマス施設」への理解を深める



県民・NPO・事業者・行政が協働してバイオマスの活用を進める

- 施策 1：バイオマス活用に参加しよう
- 施策 2：バイオマスを使おう
- 施策 3：バイオマスをもっと知ろう
- 施策 4：県・市町で連携しよう

基本方針 2 広げようバイオマス

バイオマスを活用する「人」「地域」「もの」を着実に広げる



バイオマスの活用を着実に広げる

- 施策 5：食品廃棄物・農作物非食用部の活用
- 施策 6：水産業関係のバイオマスの活用
- 施策 7：木質バイオマスの活用
- 施策 8：その他のバイオマスの活用(家畜排せつ物、紙、黒液、稲わら、もみがら)

基本方針 3 チャレンジしようバイオマス

バイオマス活用の「新たな技術開発」「新たなシステムづくり」を進める



新たな方法により、もっと「バイオマス活用」を広げる

- 施策 9：エネルギーへの活用
 - 〈新たな取組事例〉 藻類からのバイオディーゼル燃料製造
 - 下水汚泥のエネルギー活用
 - 食品廃棄物などからのバイオガス生産

施策 10：新たな挑戦

〈技術開発の事例〉

みかん搾汁残さの飼料化技術

ハマチ内臓の養殖魚への飼料化技術

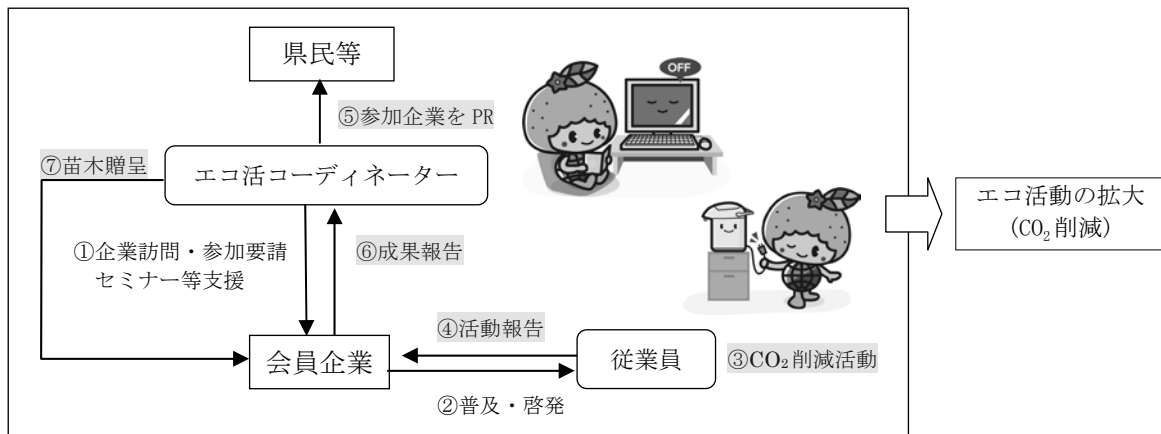
下水汚泥及びし尿汚泥焼却灰からのリン回収

えひめ CO₂ 削減エコ活動コーディネート事業

地域連携・提案型重点分野雇用創出事業を活用し、従業員が家庭で行う CO₂ 削減活動(電気、ガス、水道使用量の削減)の支援等を行いました。

平成23年度は、908事業者、11,028世帯が参加し、371,741.7kgのCO₂削減効果が報告され、活動の成果として苗木561セット(3,360本)を県内に植樹しました。

<http://ameblo.jp/ecokatsuehime/>



環境教育・学習を推進する人材の育成

環境関連の実務者や環境保全活動者などに、より高度な環境知識を修得してもらうため、学識経験者や環境分野の専門家を講師として迎え、専門的で質の高い講義内容の「えひめ環境大学」を実施しました。平成23年度は、メインテーマを「喫緊の環境課題(エネルギー及び生物多様性)」に設定し下記のとおり開催しました。

また、「三浦保」愛基金を活用し、パートナーシップを推進し環境保全活動を活性化させるため、東・中・南予で環境保全活動の事例発表や講演を行う交流会を開催したほか、環境学習や環境活動に積極的に取り組もうとする若年層を対象に、今後の環境学習の指導者育成につなげていくため、次世代環境リーダー育成講座を開催しました。

えひめ環境大学の開催実績(平成23年度)

回	月 日	講 師	演 題
1	7月2日(土) 【13:30~16:00】	東京大学名誉教授 石井 吉徳	3.11 後の自然と共存する地域社会 —石油ピークと「日本のプランB」—

2	7月9日(土) 【13:30~16:00】	(独) 産業技術総合研究所太陽 光発電工学研究センター副研究 センター長 仁木 栄	太陽光発電の現状と技術の動向
3	7月16日(土) 【13:30~16:00】	慶応義塾大学環境情報学部教授 清水 浩	21世紀社会のエネルギーと電気自動車
4	7月23日(土) 【13:30~16:00】	(財) 休暇村協会常務理事 笹岡 達男	我が国の生物多様性 —どう調べ、どう守る?—
5	7月30日(土) 【13:30~16:00】	愛媛県環境創造センター所長 森田 昌敏	喫緊の環境課題 (まとめと総合討論)

家庭の省エネ推進モデル事業

家庭の電気使用量を「見える化」する専用機器「省エネナビ」を県内の一般家庭に3か月間無料で貸与し、省エネナビを活用しながら家庭での節電に取り組んでもらう家庭の省エネ推進モデル事業を実施し、貸出期間が終了したモニターに対し、省エネナビの有効性、節電に対する意識等についてアンケート調査を実施しました。

- ・省エネナビ購入台数 100台
- ・実施期間 平成23年9月～平成24年3月
- ・モニター世帯数 113世帯

微量PCB廃棄物処理施設整備事業

(財)愛媛県廃棄物処理センターでは、平成22年に全国で初めて環境大臣の無害化処理認定を受け、主に微量PCB汚染絶縁油の処理を開始しています。しかし、微量PCB汚染廃電気機器等の全体を処理するには、絶縁油を抜いた後の機器(容器及び鉄芯・コイル等の内部構造物)についても安全かつ確実に処理する必要があることから、平成23年度にこの処理に必要な加熱分離炉を、新たに整備しました。

この施設が環境大臣の無害化処理認定を取得すれば、遅れていた全国の抜油後の微量PCB汚染廃電気機器等の処理も大きく前進することとなります。

加熱分離炉



加熱分離炉で処理後の変圧器(トランス)



事業所所在地	愛媛県新居浜市磯浦町 18-78
施設供用開始時期	平成 12 年 1 月 (微量 PCB 汚染廃電気機器等は、平成 22 年 6 月) (〃 (絶縁油抜油後の機器) は、平成 25 年 4 月 (予定))
処理方式	ロータリーキルン式焼却溶融炉 (2 炉) ローラーコンベア式連続炉方式加熱炉 (1 炉) 【新設】
処理対象物 (H24 年 12 月現在)	一般廃棄物・産業廃棄物
	焼却灰、有機汚泥、廃プラスチック、感染性廃棄物、廃油等
	微量 P C B 汚染廃電気機器等
	○廃 P C B 等 (微量 PCB 汚染絶縁油) ○微量 P C B 汚染物 (紙くず又は木くず、小型コンデンサ)、

(財) 愛媛県廃棄物処理センター <http://www10.ocn.ne.jp/~econix/>

生物多様性センターの設置

平成 24 年 4 月から「生物多様性えひめ戦略」の具体的な推進を図るため、希少野生動物等の調査・研究をはじめ、情報収集・分析や標本管理、普及啓発等を一括して行う「生物多様性センター」を衛生環境研究所内に設置しました。

生物多様性センターの主な事業の概要

- 特定希少野生動物植物 (ナゴヤダルマガエル) に関する調査・研究
県指定の特定希少野生動物植物「ナゴヤダルマガエル」(絶滅危惧 I 類) の生息調査や保全対策研究を行う。
- 「えひめの人と生きもの学会(仮称)」の設立支援
大学・NPO 等の関係機関・団体とのネットワークを構築し、生物多様性に向けた調査・研究・普及啓発等を担う「えひめ人と生きもの学会(仮称)」の設立に向けた支援活動等を行う。
- レッドデータブック (RDB) の改訂
14 年度に作成したレッドデータブック (RDB) を改訂するとともに、モニタリング調査の実施により、野生動物植物の分布情報のデータベース化を図る。

